

今後の国土の幹線となる道路に関する制度等のあり方について (回答様式)

【アンケートの対象とする道路】

以下のアンケートのうち、

- ・1については、高速道路会社の管理する高速道路についてお答え下さい。
- ・2、3、4については、高速自動車国道をはじめとした国土の幹線となる道路(直轄国道を含む:以下「国土幹線道路」とする)についてお答え下さい。

注)文中で【別紙 〇】とあるのは、別紙参考資料を指します。回答の参考にして下さい。

注)文中で【資料 p 〇】とあるのは、第1回国土幹線道路部会(平成24年11月20日)の配付資料を指します。下記 URL よりダウンロードし、回答の参考にして下さい。

http://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/road01_sg_000115.html

自治体名 岐阜県 岐阜市

1. 今後の料金制度のあり方

高速道路会社の管理する高速道路の料金については、民営化時の割引導入後、経済対策で追加された利便増進事業による割引の期限が平成25年度末となっています。このため、今後、料金割引の見直しを行う必要があり、あわせて、料金体系を利用者にとって公平でわかりやすいものに再編することについても考える必要があります。そこで、今後の料金制度のあり方について、質問します。

問1-1 今後の料金制度については、高速道路のあり方検討有識者委員会がとりまとめた「今後の高速道路のあり方 中間とりまとめ」(平成23年12月9日)(以下、「中間とりまとめ」とする。)において、

今後の料金制度の基本的な考え方
(基本となる考え方)

- ・公正妥当な料金の実現と低減への努力
- ・安定的でシンプルな料金制度の構築
- ・弾力的な料金施策等による交通流動の最適化

(具体的な方向性)

- ・料金制度のあり方: 対距離料金を基本とし、水準(料率)は全国で共通
料率を高くする区間でも、他区間と大きな料金差とならないよう留意
交通需要等により料率を変動
- ・料金施策の方向性: 様々な政策課題に対応するため、きめ細やかな料金とすることが妥当
効果を精査した上で導入し、PDCA サイクルで評価、継続・見直しを検討

とされているところですが、この提言についてどのようにお考えになりますか。

http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/hw_arikata/chu_matome2/matome.pdf

問1 - 2] これまで、高速道路の料金割引として、民営化時に導入した割引や、利便増進事業による割引等が導入されてきましたが、その内容についてどのようにお考えになりますか。

【別紙1, 2, 3, 4】【資料6】

高速道路利便増進事業には、ここで示されている料金割引の他に、スマートインターチェンジ整備事業があります。

スマートインターチェンジ整備事業は、インターチェンジ間隔の平均を約5kmに改善することを念頭にし、高速道路の通行者及び利用者の利便の増進を図るものとしています。

そのため、地方部の地域の実情(観光・産業・医療・耐災など)を十分に考慮する中で、今後も必要な制度であると考えます。

問1 - 3 利便増進事業による割引の期限は平成25年度末となっています。平成26年度以降の料金割引について、一般道路の渋滞解消、地域活性化、物流コストの低減など、重視する点をどのようにお考えになりますか。

また、厳しい財政状況の下、債務の確実な返済や国民負担の最小化など、民営化の考え方も踏まえつつ、割引をどのようにすべきとお考えになりますか。

なお、割引の拡大や、利便増進事業による割引の継続のためには、様々な工夫を行った上でもなお、償還計画の見直しや税金の投入など、何らかの財源確保策が必要となる可能性があります。その場合、どのようにすべきとお考えになりますか。

問1 - 4 この他に高速道路の料金施策に関するご意見がございましたら、お聞かせ下さい。

料金の割引については、高速道路の利用を促し、一般国道の渋滞緩和や環境への配慮、更には、地方部にとって地域活性化などに寄与するものと考えます。

一方で、社会実験でも検証されたように、料金割引は課題(交通施策など)もあり、そのような中で、国民にとって公平で、また様々な政策(渋滞解消、地域活性化など)への対応などに配慮しつつ、高速道路が、国土の幹線道路として持続可能な制度となることを望むものです。

2. 今後の維持更新のあり方

高速道路をはじめとした国土幹線道路については、今後、構造物の老朽化が進むなか、大規模更新の需要が高まることが見込まれますが、維持更新については、適切な維持管理を行いながら、ライフサイクルコストの縮減に努めているところです。そこで、今後の維持更新のあり方について、質問します。

【別紙5】【資料3 p32～42】

問2 - 1 今後の高速道路の維持更新のあり方については、「中間とりまとめ」において、

(基本となる考え方)

・債務の確実な償還と将来の更新等への対応

(具体的な方向性)

・更新費用等と償還の扱い : 更新費用等への対応は、厳しい財政状況も踏まえつつ、償還期間延長、償還対象経費の見直し、償還後の継続的な利用者負担を含め、幅広く検討

とされているところです。

無料の直轄国道を含む国土幹線道路の大規模更新需要に対応するために必要な費用について、世代間の負担のバランスおよびその財源をどのようにお考えになりますか。

(無料の国土幹線道路においては、現在の維持更新は税金により実施しています。有料の国土幹線道路においては、現在の維持更新は料金収入により実施し、大規模更新に必要な費用は、現在の償還計画に含まれていません。)

問2 - 2 この他に維持更新に関するご意見がございましたら、お聞かせ下さい。

高速自動車国道をはじめ直轄国道を含む国土の幹線となる道路は、国の骨格を形成する大きな要素であります。
今回の「中央自動車道笹子トンネル天井板の落下事故」で経験したように、国土幹線道路が不通となることは、地域の交通機能や経済のみならず全国的かつ多分野に大きな影響を及ぼすこととなります。そのため、国において、緊急性や必要性などを鑑み、優先順位を付ける中で計画的かつ積極的に維持更新に努められるべきと考えます。

3. 今後のネットワークのあり方

高速道路のネットワークのあり方については、「中間とりまとめ」において、

明確なプライオリティに基づく戦略的整備 ～最優先で取り組む2本柱～

- 1) 「日本経済を牽引する拠点地域」として大都市・ブロック中心都市におけるネットワークの緊急強化
環状道路など抜本的対策の加速
ボトルネック箇所への集中的対策
運用改善等の工夫
- 2) 「繋げてこそそのネットワーク」を改めて認識し脆弱な地域の耐災性を高め、国土を保全するネットワーク機能の早期確保
走行性の高い国道の活用や完成2車線の採用
簡易ICの増設
防災機能の付加

とされているところです。

【別紙6, 7 - 1, 7 - 2, 7 - 3】【資料3 p3～8】

問 3 今後の国土幹線道路のネットワークのあり方について、どのようにお考えになりますか。

中間とりまとめの中で、高速道路サービスは、「車以外の交通手段が十分でない地方において、医療へのアクセスや災害への備えなど地域の安全・安心に直結するとともに、地域の観光資源を活かす基盤としても期待が大きい」とされており、岐阜県のような、「空港、港」のない内陸部の地方においては、必要不可欠なものであると考えます。

加えて、地域の産業振興といった面からも欠かすことが出来ないサービスであり、

とりわけ、簡易ICの増設による利便性の向上は、地方都市にとって、災害時はもとより通常時においても医療・観光・地域振興といった面で有益であり、積極的な推進を望むものです。

また、「走行性の高い国道も活用しつつ、ネットワークとしての機能を出来る限り早期に確保することが重要」と示されているように、広域連携の強化につながる高規格の道路整備やミッシングリングの解消が進められることを望むものです。

4. 今後の整備・ネットワーク管理の手続きのあり方

高速自動車国道や一般国道など、道路の種別により、都道府県や第三者機関への意見聴取など、整備に至る手続きは異なっています。

高速道路の整備プロセスの扱いについては、「中間とりまとめ」において、

整備プロセスの透明化

- ・道路種別に関わらず、主要な幹線道路について、整備プロセスをできる限り充実
- ・高速道路だけでなく、並行する国道などを対象に、例えば、整備計画の制度やその決定の際に意見を聞く第三者機関など、整備プロセスを整理するとともに、その位置付けを明確にし、国民に分かりやすい形で伝達することが重要

とされているところです。

【別紙8】

問 4 整備の手続きの現状と今後のあり方について、どのようにお考えになりますか。

国民が道路整備の計画の内容やその進捗状況を把握できるよう、整備のプロセスをできる限り充実し、国民にわかりやすい形で伝達する必要があると考えます。

そのため、国土幹線道路の都市計画決定やその用地交渉などに協力する自治体として、また、地域の生活を預かる自治体として、「基礎自治体」の意見が十分に反映されるような整備プロセスを望むものです。